

西濃農林事務所の普及活動状況

平成28年10月31日現在

今月の重点活動

■指導農業士 農業大学校学生派遣学習状況確認 海津市、神戸町

農業大学校2年生の派遣学習を受け入れている神戸町の指導農業士（葉菜）、海津市の指導農業士（いちご）宅で、10月6日、7日担当教諭とともに状況確認を行った。

3名の学生とも熱心に派遣学習をしている様子であった。10月22日に1ヶ月の学習期間が終了し、11月2日に農業大学校にて学習報告会が開催される。



【神戸町】



【海津市】

活力ある新産地づくり

■ブロッコリー 新産地づくり地域活性化推進事業の取り組み

9月中旬～10月上旬の天候不順により、定植作業が大幅に遅れ、10月中旬にほぼ終了した。12月～3月が本格的な出荷期間となりそうである。9月上旬～中旬に定植したほ場では台風等の大雨により湿害も発生している他、定植が10月以降となったほ場では、出荷時期が大幅に遅れることが懸念される。農業普及課は、大雨後の排水指導・防除指導を行った。

新産地づくり地域活性化推進事業を活用し、①固化剤を用いた育苗試験、②12～1月収穫に向けた新品種試験について、西濃管内のブロッコリー農家の協力を得て試験ほ場を設置した。今後、生育調査等及び結果取りまとめをし、研修会等で農家周知を図っていく。



品種試験ほ場

多様な担い手づくり

■企業参入の個別相談支援（垂井町）「(株)ヤマサン」による大豆等栽培に係る相談会

9月28日に、垂井町において農業への参入を希望する農外企業の個別相談会を行った。大豆及び大豆加工食品（油脂等）の製造、米穀卸、飼料などの販売を行っている(株)ヤマサン(本社：大阪府)名古屋支店から支店長以下3名が来町し、垂井町内での農業参入の申し出、農地斡旋相談があった。社業取扱いの大豆を自前で調達したいため、農地（水田）の斡旋が要望された。町からは遊休化が進んでいる畑地（約1ha程度）を紹介し、同社は現地視察、検討を行い、参入の可否を検討することとなった。

■農事組合法人メガファーム岐阜四郷南 設立総会

輪之内町四郷地区において、10月2日に(農)メガファーム岐阜四郷南の設立総会が開催された。当地区では集落営農等がなく、将来の農地維持に対して効率的な水田農業を實踐できるよう法人を設立した。来年の水稲作付からの共同作業を予定しており、農業普及課からは適正な法人運営ができるよう支援を行っていく。



【設立総会】

売れるブランドづくり

■小麦（全域）小麦の栽培支援

小麦の29年産の種は海津市での10月下旬から、順次各地では種作業が始まった。

29年産から「イワイノダイチ」と共に、「農林61号」から切り替わった「さとのそら」が作付けされる。

「さとのそら」に関しては、農業普及課は28年産において養老町で先行して広域に作付けし、良い成績をおさめるとともに、他の地区で展示ほを設置して切り替えに伴う栽培技術の確立を検討してきた。29年産では管内全域で切り替えが行われるため、これまでの知見を基に、施肥体系や管理技術について徹底した支援を行っていく。

■春菊・ナバナ 定植・直播作業が行われる

海津春菊部会では9月下旬からハウスへの定植作業や直播作業が行われている。本年産より早播き品種「香取春菊」、普通播き品種「さとゆたか」への品種切り替えが行われ、過去に問題となった炭そ病と定植後の活着不良への対策として、は種時期の厳守と育苗管理の徹底を啓発してきた。

また、ナバナは根こぶ病対策として早まき厳禁を啓発してきた。

いずれも9月の長雨の影響で春菊では軟弱徒長、根張り不足など生育遅延の傾向が生じたが、農業普及課から圃場の排水改善、計画的な移植、防除について指導を行い、10月7日に初出荷となった。また、ナバナでは種が遅れたため、農業普及課から10月15日を晩限として適期は種を進め、概ね順調に生育している。

■かき 柿の出荷始まる 海津市・養老町

10月19日に養老果樹振興会が、20日にJAにしみの南濃柿部会が松本早生、富有、陽豊の3品種に対する目揃会を開催した。柿の着色は9月以降高温傾向にあり、着色が遅れている。10月24日から松本早生を対象に選果場を稼働させているが、出荷のピークが例年より遅れている。

農業普及課と選果場からは十分着色されてから出荷するように呼びかけている。

■マコモタケ 大垣市

10月7日大垣マコモタケ研究会は、ほ場にてマコモタケの収穫出荷について新聞社とNHKの取材を受けた。今年は、大垣養老高校の生徒の現地研修も重なり、農家、高校の生徒と先生が収穫、調整を行い、取材を受けた。JAにしみの、大垣市農林課、農業普及課は作業や情報提供のサポートを行った。主にJAにしみのファーマーズマーケットで販売している。



【収穫する生徒】

■新たな特産品の開発(垂井町)「垂井ブランド認証審査会」の開催

10月17日に、垂井町の新たな特産品(ブランド商品)を掘り起こすため、町長認定による『垂井ブランド2016』の審査会が行われた。

町内原材料を用い、町内製造・販売を行い、町のイメージアップにつながる商品を町ブランドとして認証、積極的なPR支援を行っていくものであるが、今回は町内各所から9品目が出品(申請)され、「長浜屋の手作りたるい味噌」(庁内府中地区で栽培された大豆を100%使用)など7品目が認定される見込みとなった。

認定された加工食品等については、機会を捉え、県が行う各種イベント等への積極的な誘導等を進めていきたい。